

東部被災地域の復興と 震災の教訓の発信



防災・減災の意識を高める場とするため、東日本大震災において児童や教職員、地域住民ら320人が避難し、2階まで津波が押し寄せた荒浜小学校を震災遺構として公開しています。

震災遺構仙台市立荒浜小学校



被災市街地復興土地区画整理事業

防災集団移転促進事業

防災集団移転後の蒲生北部地区において、新たな産業集積を推進するため、業務系土地利用にふさわしい都市基盤の再整備と土地の整理集約を図る土地区画整理事業を進めています。

蒲生北部地区
令和元年12月

内陸側の既存集落および集団移転先の安全確保を図るため、津波の威力を減じる機能を持たせた、盛土高約6mのかさ上げ道路が建設されました。

(令和元年11月 全線開通)



仙台市

東部地域の13カ所に津波避難施設(タワー型6カ所、ビル型5カ所、津波避難屋外階段2カ所)を整備しました。



災害公営住宅整備事業

防災集団移転促進事業

新たな暮らしのスタート

下増田地区で被災された方々の集団移転先である美田園北地区の復興まちづくり（防災集団移転団地、災害公営住宅）が完成しました。

美田園北地区 平成27年10月



災害公営住宅整備事業

被災市街地復興土地区画整理事業

本格化する産業再生： 復興市街地土地区画整理事業

関上地区 令和2年3月



関上まちびらき 令和元年5月26日

仙台市

名取市

関上地区は、江戸時代から栄える関上漁港があり、仙台近郊の漁港町として、職住近接したまちでした。震災後、既存市街地の現地再建及び水産業の復活を目指し、鋭意事業推進中です。

今回の津波被害で、私たちは物理的に防御できない津波の存在を知りました。このような大自然の力と向き合っていくためには、大自然の力を完全に防御するのではなく、災害時の被害をいかに最小限に食い止めるかという『減災』という考え方を基本に、まちづくり、地域づくりを進めていく必要があります。
 岩沼市では、「愛と希望の復興」をビジョンとして掲げ、スピード感とコスト意識をもった震災復興に取り組みます。

空が広く 感じられるまち



県内初の大規模内陸移転団地である玉浦西地区。沢山の住宅が建ち、新しい町並みが形成されています。

沢山の人が訪れた玉浦西まち開きの様子
 平成27年7月19日



沿岸の6地区を1箇所に集約し、それぞれのコミュニティを保ちながらひとつの町を作り上げました。



津波よけ「千年希望の丘」
 沿岸部に津波の力を減衰させる津波よけ「千年希望の丘」を整備し、減災に取り組むとともに、後世の人々へ今回の津波被害の大きさや私たちの想いをつなぐために、「千年希望の丘」を含めたエリアをメモリアルパークとして整備しました。

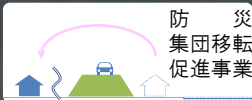


岩沼市

伊達なわたりの復活を目指して



災害公営
住宅
整備事業



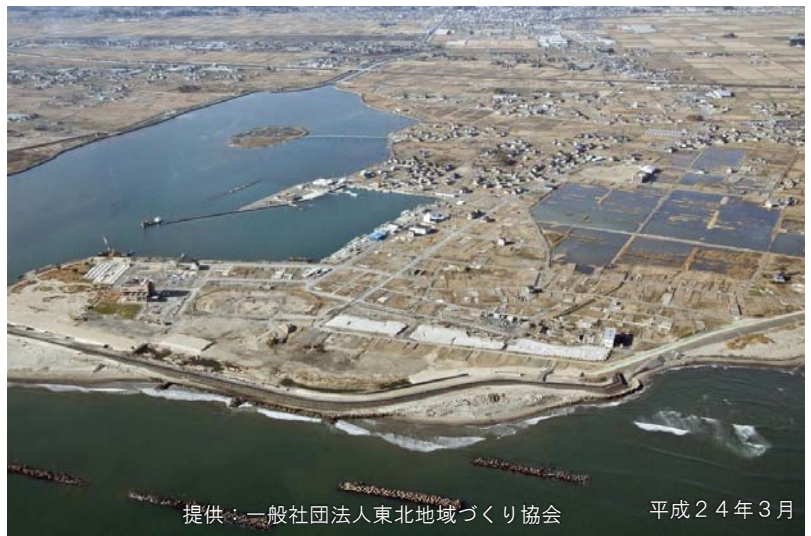
防 災
集団移転
促進事業

災害に強いまちづくりの構築を行うとともに、保健・福祉・教育の各分野における安心のまちづくりを推進し、生涯を託せる安全・安心のまちづくりの確立を目指します。

令和2年3月
提供：アジア航測（株）



中小企業者の事業活動の早期再開を推進するため整備を進めてきた「亘理町荒浜にぎわい回廊商店街」が平成27年3月オープンしました。



提供：一般社団法人東北地域づくり協会

平成24年3月



仙台市

亘理町



提供：一般社団法人東北地域づくり協会

平成10年11月

内陸移転するJR常磐線新駅を 中心としたコンパクトシティ



災害公営
住宅
整備事業

防 災
集 団 移 転
促 進 事 業

分譲宅地での住宅建築が進み、
平成28年12月にJR常磐線の運転が再開されました。

新山下駅周辺地区
平成30年7月

防災拠点・山下地域交流センター（ひだまりホール）が
完成しました。



新山下駅周辺地区
平成29年11月

全ての世帯が入居を開始し、防災拠点・地域交流セン
ター（ふるさとおだか館）も完成しました。



新坂元駅周辺地区
平成30年7月

分譲宅地は平成28年12月から引渡しが始まり、災害
公営住宅も平成29年3月に全戸完成しました。



宮城病院周辺地区
平成29年2月

コンパクトシティ

山元町は、震災後、被災集落を核となる3つの新市街地へ集約し、うち2地区は
内陸移転するJR常磐線2新駅を中心としたコンパクトで持続可能なまちづくりを
目指す方針としました。



山元町

産業再生

町特産ホッキ貝の漁が再開

かつての活気を取り戻すべく、被災した漁場からがれき撤去を継続
している中で、ホッキ貝漁を試験
的に再開しました。



いちごの一大産地として

新たな一歩を踏み出しました

東北でも有数のいちご産地の復活に向けて、計画す
る4ヶ所全てのいちご団地整備が完了しました。



東北国営公園事務所

東日本大震災からの復興の象徴となる

国営追悼・祈念施設



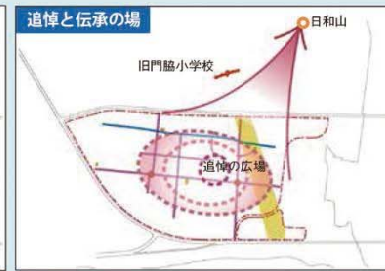
《基本理念》東日本大震災により犠牲となったすべての生命(いのち)への追悼と鎮魂の思いとともに、まちと震災の記憶をつたえ・生命(いのち)のいとなみの杜をつくり・人の絆(きずな)をつむぐ

基本デザインコンセプト ～浜・街・追悼と伝承の場所性を重ねる～

この地の土地の履歴が示すかつての「浜」、市街化後の南浜地区への想いや記憶が残る「街」を土地利用の前提とし、東日本大震災による犠牲者を追悼し、被災の教訓を次世代へと伝承していくことを祈念します。

浜・街・追悼と伝承の場所性とは

- 浜(土地の履歴)が意味するもの
この地はかつて湿地と松原だった場所。津波で街が消失し、本来の自然に回歸しつつあります。
- 街(街の記憶)が意味するもの
市街地が大津波で消失しましたが、人々の心には暮らしの記憶が残っていて、この地には暮らしの記憶を再生する手がかりが残っています。
- 追悼と伝承が意味するもの
自然への畏敬の念と暮らしの記憶を持ち、追悼と教訓の伝承とともに、復興への意思を伝え続けます。



石巻南浜津波復興祈念公園概要

市民活動拠点

- ・がんばろう! 石巻や南浜つなぐ館等の機能移設により、市民による伝承活動を継続。

多目的広場

- ・野球やサッカー等の運動を主体とした活動空間。

池・湿地

- ・市街化以前の風景として、池や湿地を再生。

松原

- ・かつて存在し、人々の記憶にも残っている松原(松林)を復元。

中核的施設

- ・休憩所、ビジュアルセンターとなる施設。

門脇駐車場

- ・公園のメイン駐車場。普通車234台、大型バス9台の駐車が可能。

追悼の広場

- ・約8,000㎡の公園の中心的広場。

一丁目の丘

- ・公園全体を見渡せる築山。

※ここで示される施設名称は仮称であり正式名称ではありません

市民活動拠点の概要

○本公園は、「多様な主体の参画・協働の場を構築する」ことを基本方針に掲げており、市民活動拠点はこの方針に基づく、多様な主体の参画・協働の中心的な場となります。

○市民活動拠点では、市民による伝承活動や公園に植栽する樹木の苗の育苗の取り組みが始まっており、今後もこの場所を中心として、市民活動が展開される予定です。(この活動は工事期間中も継続的に実施される予定です。)



がんばろう! 石巻(震災2000日追悼の灯り)



南浜つなぐ館(震災伝承に関する展示)



復興の森づくり植樹祭



花譜プロジェクト

植栽計画の考え方

○計画地の条件をふまえ、この地に成立可能な自然植生や郷土種の植栽環境を再生・創出します。

○植栽する樹種は、現存する自然植生や郷土で歴史的に形成された植栽をモデルに選定します。

○計画の実現に向けて、現地では植樹や花畑づくりが始まっています。

東日本大震災からの復興の象徴となる国営追悼・祈念施設(仮称)の設置について

(平成26年10月31日閣議決定)
(平成29年9月1日一部変更)

東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂や、震災の記憶と教訓の後世への伝承とともに、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信のため、国は、地方公共団体との連携の下、岩手県陸前高田市、宮城県石巻市及び福島県双葉郡浪江町の一部の区域に、国営追悼・祈念施設(仮称)を設置する。

【内容】地方公共団体が整備する復興祈念公園の中に、国が中核的施設となる丘や広場等を設置することを想定

空間デザインコンセプト

石巻南浜津波復興祈念公園は、日和山や旧門脇小学校との歴史的・地理的關係を大切にし、公園内外の主要箇所を巡ることにより、震災への「気づき」や「学び」を得て、犠牲となられた多くの生命に「祈り」を捧げることができる空間構成とします。



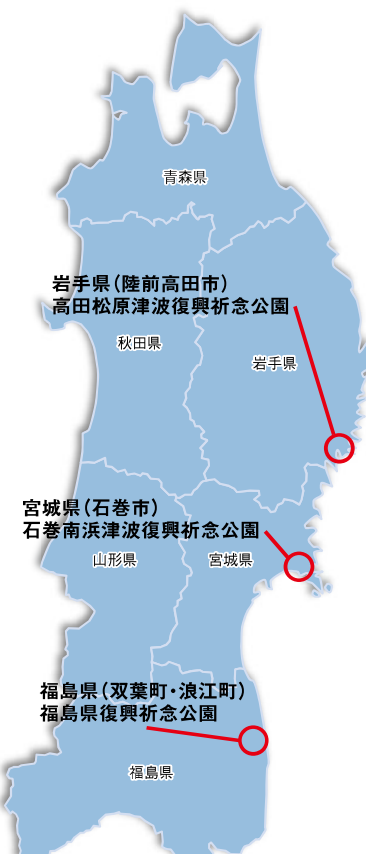
がんばろう! 石巻看板



中核的施設から旧門脇小学校を望む

これまでの経緯

岩手県		宮城県		福島県	
平成23年3月11日 東日本大震災					
平成23年	8月 岩手県の復興計画に「メモリアル公園等整備事業」を位置づけ 12月 陸前高田市の復興計画に「防災メモリアル公園ゾーンの形成」を位置づけ	平成23年	12月 石巻市の復興計画に「復興のシンボルとなる公園整備」を位置づけ 3月 国土交通省が「震災復興祈念公園の基本的あり方」を整理	平成23年	3月 国土交通省が「震災復興祈念公園の基本的あり方」を整理 平成26年
平成24年	3月 国土交通省が「震災復興祈念公園の基本的あり方」を整理 「国営防災メモリアル公園を陸前高田市に誘致する会」が関係省庁に要請書・署名を提出	平成24年	12~2月 南浜地区・中瀬公園 miraいの公園づくりワークショップを開催	平成26年	10月 福島県が「東日本大震災における追悼、鎮魂等の施設検討プロジェクトチーム」を設置 4月 福島県が復興祈念公園の候補地を「双葉町・浪江両町にまたがるエリア」とすることを決定 10~3月 福島県における復興祈念公園のあり方検討有識者会議 公園のあり方に関する提言の公表(平成28年6月)
平成25年	7~3月 高田松原地区震災復興祈念公園構想会議 公園のあり方に関する提言の公表(平成25年3月)	平成25年	6月 地元自治体が石巻市南浜地区の復興祈念公園整備を求める要望書を関係省庁に提出 10月 石巻市南浜地区における復興祈念公園を考える市民フォーラムを開催	平成27年	9~3月 福島県における復興祈念公園基本構想検討調査有識者委員会 基本構想の策定(平成29年7月) ○公園の基本理念や基本方針 ○公園検討区域と周辺地域を含む空間構成の考え方
平成26年	9~6月 岩手県における復興祈念公園基本構想検討調査有識者委員会 基本構想の策定(平成26年6月) ○公園整備の理念や基本方針 ○公園の利活用・空間イメージ	平成26年	10月~3月 宮城県における復興祈念公園基本構想検討調査有識者委員会 基本構想の策定(平成26年3月) ○公園整備の理念や基本方針 ○空間構成の方針・空間の骨格	平成28年	12月 双葉町復興まちづくり計画(第二次)において、被災伝承・復興祈念ゾーンの中に復興祈念公園を位置づけ
平成27年	7月~ 岩手県における復興祈念公園基本計画検討調査有識者委員会	平成27年	8月~ 宮城県における復興祈念公園基本計画検討調査有識者委員会 3月 国連防災世界会議 パブリック・フォーラムを開催	平成29年	4月 浪江町復興計画(第二次)において、復興祈念公園候補エリアを位置づけ 福島県における復興祈念公園シンポジウムを開催 7~3月 福島県における復興祈念公園基本計画検討調査有識者委員会
平成28年	4月 基本計画(案)に対する意見募集(パブリックコメント)を実施	平成28年	5月~6月 基本計画(案)に対する意見募集(パブリックコメント)を実施	平成30年	5~6月 基本計画(案)に対する意見募集(パブリックコメント)を実施 6月 福島県における復興祈念公園シンポジウムを開催 7月 基本計画の策定 9月~ 福島県における復興祈念公園有識者委員会
平成29年	8月~ 基本計画の策定 高田松原津波復興祈念公園有識者委員会 9月 高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会 市民協働ワークショップ	平成29年	10月~ 石巻市南浜地区復興祈念公園有識者委員会 6月 市民活動拠点活動開始 10月~ 石巻南浜津波復興祈念公園「参加型維持管理運営」協議会	令和元年	3月 起工式 5月 福島県復興祈念公園基本設計を公表
令和元年	3月 起工式 8月 国営追悼・祈念施設(仮称)管理棟建築工事着工 9月 一部利用開始	平成31年	3月 起工式 1月 国営追悼・祈念施設(仮称)管理棟建築工事着工		



国土交通省 東北地方整備局 東北国営公園事務所

〒989-1501 宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松53-9
TEL(0224)84-6211 FAX(0224)84-6214
<http://www.thr.mlit.go.jp/m-park/>

〈石巻南浜津波復興祈念公園〉

かつて街だった地に、
この公園は造られました

石巻南浜津波復興祈念公園は、宮城県、さらには被災地全体のかなめとなる復興祈念公園として、この地のみならず東日本大震災で失われたすべての生命（いのち）に対する追悼と鎮魂の場となるとともに、東日本大震災の記憶と教訓を後世に伝える拠点となり、さらには、かつて市街地であった場所に人々が係わり、人と人との絆、つながりを築いていくことにより、東日本大震災からの復興の象徴となるものです。



〈みやぎ東日本大震災津波伝承館〉

2011(平成23)年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災では、多くの尊い生命(いのち)が失われ、ふるさとは甚大な被害に見舞われました。

同じ悲しみと混乱を繰り返さないために、東日本大震災の記憶と教訓を永く後世に伝え継ぐこと。被災地の再生と復興に向けて、人々と地域が力を合わせて歩み続けること。それが、私たちの責務です。

みやぎ東日本大震災津波伝承館は、その責務を確かめ合い、未来への誓いを新たにするための場として整備されました。

次なる災害への備えを確かなものにできるよう、全国、世界、そして次世代の人々とつながり、発信と交流に努めてまいります。

2021(令和3)年3月

アクセス

〔所在地〕 宮城県石巻市南浜町2丁目1-56



- お車をご利用の場合
仙台から：三陸縦貫自動車道経由で約70分
最寄りインター：「石巻港IC」、「石巻河南IC」 各ICから約15分
駐車場（無料）：門脇駐車場
普通車229台、大型車9台、障がい者等優先5台
- バスをご利用の場合
石巻駅前バス乗り場2より山下門脇線「門脇四丁目」下車
所要時間：約12分
- タクシーをご利用の場合
石巻駅前から約10分
- 自転車をご利用の場合
石巻駅前から約15分

※所要時間はおよその目安です。
ご利用の際は、最新の時刻表等をご確認ください。

利用案内

〔開館時間〕 9:00~17:00(最終入館 16:30)
〔休館日〕 毎週月曜(祝日の場合は翌日)

祝日の翌日(土日、GW期間を除く)
年末年始(12/29~1/4)

※毎月11日は曜日・祝日に限らず開館

〔入館料〕 無料
〔TEL〕 展示見学に関すること 0225-98-8081
公園利用に関すること 0225-98-7401

〔FAX〕 0225-98-8082
〔ホームページ〕 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-segin-e/miyagi-denshokan.html>

震災の記憶と教訓を伝え継ぐ

みやぎ東日本大震災津波伝承館

MIYAGI
3.11
TSUNAMI
DISASTER
MEMORIAL
MUSEUM



ホームページ

館内は思い致す場でのみ飲食可

津波から命を守る

“津波から命を守る”ための意識を高め、将来の危機に備える行動を強く促すために、日和山を望む空間でじっくり向き合い学べます。



東日本大震災・緊急対応の記録

発災以降の緊急対応の記録と被災物を通じて津波の脅威を伝え、頻発する自然災害への備えについて考えるきっかけを提示します。

【制作：国土交通省 東北地方整備局】



ともにつくる復興

東日本大震災を経て生まれた、まちを元気にし、地域を立ち上げさせる取組や施設、団体を紹介します。



5

シアター「くり返さないために」

ドキュメンタリータッチの演出により、津波から命を守るには“逃げる”ことが最優先であることを徹底して訴えます。
※映像内には津波等の様子が含まれます。

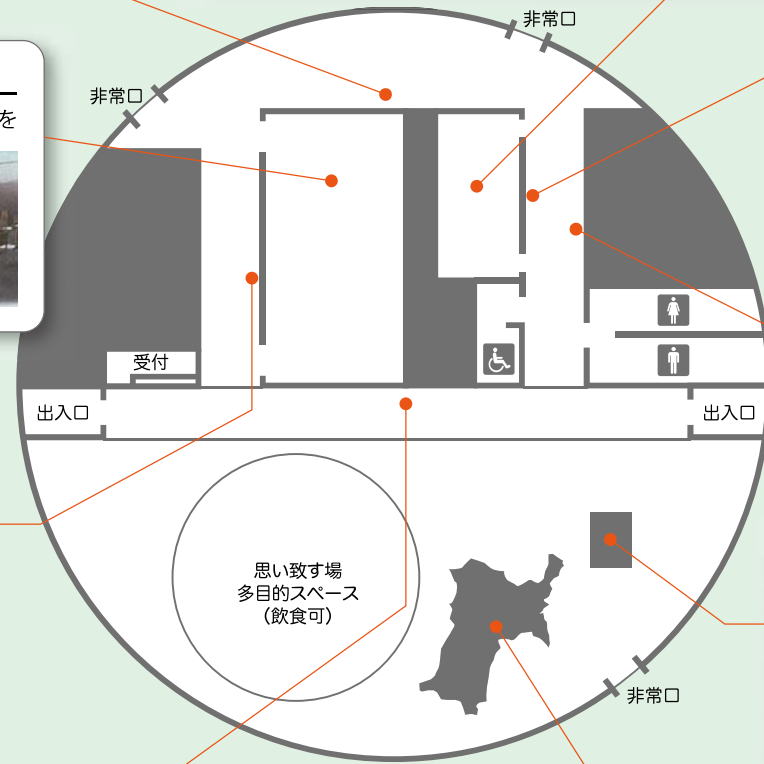


東日本大震災を知る

観測史上最大級の地震・津波による甚大な被害とその全体像を伝えます。



2



思い致す場
多目的スペース
(飲食可)

3.11 伝承ロード

東日本大震災の実情と教訓を学ぶことができる「震災伝承施設」を紹介します。

【制作：国土交通省 東北地方整備局】



「語り部」からのメッセージ

県内各地の語り部団体の活動の様子を紹介し、震災遺構や伝承施設など、現地へ赴くきっかけを提示します。



つなぐ記憶

在りし日の情景を映像で映し出し、記憶を誘うシアターです。
失われた街を偲び、被災の大きさを心に刻みます。



一人ひとりの記憶

被災された方の震災当時から現在に至るまでの証言映像を通じ、様々な角度から震災を考えるきっかけを提示します。



◆石巻南浜津波復興祈念公園

